

令和7年度第1回庄原市初任者研修会

令和7年4月30日（水） 庄原市役所

「庄原市における教育課題を踏まえ、新任教職員に対して教育推進上の諸課題等について研修を行い、職務遂行上必要な実践的指導力を養うこと」を目的に、研修会を行いました。

【参加者：小学校教諭5名、中学校教諭6名、養護教諭2名、栄養教諭1名、事務主任1名】

【講話】「子供たちに確かな力をつける！」

庄原市教育委員会 教育長 牧原 明人

庄原市の実態をもとに、庄原市で学びたいと思える子供の育成に大切なことについて講話を行った。

- 庄原には、美しい四季や温かく助け合う人々、素直にまっすぐ一生懸命伸びようとする子供の姿がある。まずは、教職員の皆さんが庄原の魅力に触れていただきたい。
- 指導力＝専門性×人間性＋教養である。教職員として「学び続ける姿勢」を大切にしてほしい。
- 主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善を行うことで、今の子供たちに必要な資質・能力の育成に努めていただきたい。

（参加者の振り返りより）

- 庄原の子供たちがより庄原のことが大好きになるような教育を行っていききたいです。
- 教師として高い志を持ち続け、ふるさとの学びを大切にできる児童生徒の育成を目指していききたいです。
- 庄原の良さを十分に活かし、子供に確かな力を身につけさせていくことを目指して日々過ごしていききたいです。



【講話・演習】「特別な支援を必要とする児童生徒の指導の在り方について」

庄原市教育委員会 教育部 教育指導課 指導主事 延近 恵

特別支援教育の考え方をもち、今求められる支援や指導の在り方について講話を行った。

- 特別な支援を必要とする児童生徒の割合は増えている。教育的ニーズを的確に把握し、生活上や学習上の困難を改善・克服するように、一人一人に合った適切な指導や必要な支援を考えていく必要がある。
- 子供の実際の姿をもとに演習を実施した。考えられるつまずきの要因や、どのような手立てや支援が考えられるか等、まずは子供たちの一人一人の丁寧な実態把握が支援を行うための第一歩である。



（参加者の振り返りより）

- どう対応すればその子にとって学校生活が過ごしやすくなるかを常に考えていくことが大切だと感じました。
- 一人では子供の姿が一部しか見えないことがわかり、改めてチームとして対応していくことが大切であると感じました。

【講話・交流】「社会人としての姿勢について」

庄原市教育委員会 教育部 教育指導課 指導主事 末田 和也

社会人としての姿勢について、講話・交流を行った。

- 社会人としても、教職員としても、自律的かつ継続的に新しい知識・技能を学び続ける等様々な資質・能力が求められる。
- この1か月を振り返り、自分や周りの先生方の姿から、今の自分に必要なことについて考え、子供たちの良きモデルとなしてほしい。

（参加者の振り返りより）

- 子供たちの手本となるよう、常に気持ちを引き締めていきたいと思いました。
- 交流の中で、他の初任者も同じように一生懸命悩み、一生懸命頑張っていることに改めて気づくことができ、私もさらに頑張りたいです。

